月　日 名前

／100点

【答え】

【小3】国語 文章問題　物語文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

うんどう会のリレーで、ぼくはアンカーだった。前の走者は、クラスでいちばん足のおそいゆうきくんだ。

スタートの音がなった。ぼくたちの組は、はじめは二番だった。でも、ゆうきくんにバトンがわたったとき、うしろの組にぬかれて、三番になった。

ゆうきくんは、顔をまっかにして走っていた。うでを大きくふって、歯を食いしばっている。それでも、前の組との間は少しずつ広がっていった。

「はやく、はやく。」

ぼくは心の中でさけんでいた。バトンを受け取る場所で足ぶみをしながら、手をのばした。

そのとき、ゆうきくんがつまずいた。ころびそうになったけれど、手をついて、すぐに立ち上がった。そして、また走ってきた。ひざから、少し血が出ていた。

ぼくは、さっきまで「はやく」と思っていた自分が、急にはずかしくなった。ゆうきくんは、ころんでも止まらなかった。自分にできるいちばんのはやさで、ぼくのところまで来てくれたのだ。

バトンを受け取ると、ゆうきくんの手のあたたかさが、バトンにのこっていた。

ぼくはむちゅうで走った。一人ぬいて、二番でゴールした。

ゴールのあと、ぼくはまっさきにゆうきくんのところへ行った。

「ありがとう。あのバトン、すごく重かった。」

ゆうきくんは、ひざをおさえながら、ふしぎそうな顔をした。それから、うれしそうにわらった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　前の走者のゆうきくんは、クラスでどんな子ですか。本文から十字までで書きぬきましょう。

い	ち	ば	ん	足	の	お	そ	い		

問二　「ぼくは、さっきまで『はやく』と思っていた自分が、急にはずかしくなった」とありますが、それはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　ゆうきくんが、ころんでも止まらずに、いっしょうけんめい走ってきたのを見たから。

イ　ほかの組の人に、ぼくの声を聞かれてしまったから。

ウ　ゆうきくんが、ぼくのことをおこっていたから。

ア

問三　バトンを受け取ったとき、バトンに何がのこっていましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

ゆ	う	き	く	ん	の	手	の	あ	た	
た	か	さ								

問四　ぼくが「あのバトン、すごく重かった」と言ったのは、どんな気持ちからですか。三十五字までで書きましょう。

ゆ	う	き	く	ん	が	こ	ろ	ん	で	も	が	ん	ば	っ
て	、	つ	な	い	で	く	れ	た	バ	ト	ン	だ	と	思
っ	た	か	ら	。										

【小3】国語 文章問題　物語文 2　答えと解説

問一（二十五点）　答え：いちばん足のおそい

解説：一つ目のまとまりから。この「足がおそい」ことが、ぼくの「はやく、はやく」という気持ちにつながっている。

問二（二十五点）　答え：ア

解説：すぐあとの「ゆうきくんは、ころんでも止まらなかった。自分にできるいちばんのはやさで、ぼくのところまで来てくれたのだ」から。

問三（二十五点）　答え：ゆうきくんの手のあたたかさ

解説：「バトンを受け取ると」ではじまる文から。

問四（二十五点）　答えの例：ゆうきくんがころんでもがんばって、つないでくれたバトンだと思ったから。

解説：本当の重さではなく、ゆうきくんのがんばりを受け取ったという気持ちを「重かった」と言っている。ゆうきくんが「ふしぎそうな顔」をしたのは、その意味がすぐには分からなかったから。

採点のポイント：① ゆうきくんがころんでもがんばって、つないでくれた　② その思いのこもった、大切なバトンだと感じた（二つそろって満点、一つなら半分）